

つくいじょうあとまごめちく

津久井城跡馬込地区

(相模原市城山町No.8遺跡)

調査期間 20060201～20071015

所在地 相模原市城山町小倉
字馬込

時代 旧石器
縄文
中・近世



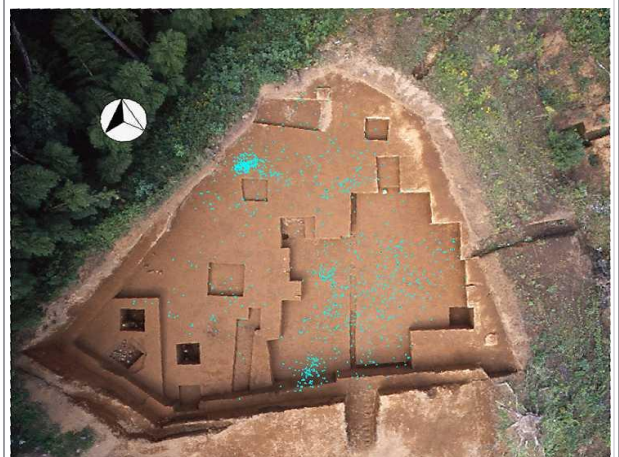
更新日:20080829

概要

津久井城跡(馬込地区)の発掘調査は、2006年2月1日～2007年10月15日まで実施され、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古代～近世にいたるさまざまな遺構・遺物が発見されました。そして現在、2010年3月の報告書刊行を目指して、野庭出土品整理室にて整理作業を継続しています。

旧石器時代の調査では、石器がおよそ1500点出土し、最下層の石器群は、B4層とよばれるおよそ3万年以前と考えられる地層から発見されました。この時期に特徴的な局部磨製石斧(きょくぶませいせきふ)や台形様石器(だいけいようせつき)の他、多数の剥片がまとまって出土しており、石器の製作址と考えられます。石器には、地元の河床で採取可能な硬質細粒凝灰岩(こうしつさいりゅうぎょうかいがん)やホルンフェルスと呼ばれる石材が多用されていますが、黒曜石や水晶(すいしょう)など地元では採取できない石材も存在しました。整理作業にて、出土した剥片類を接合していくと、およそ70点もの石器が接合し人頭大の礫に復元される資料もありました。

中世・戦国期から江戸時代にかけての陶磁器類も多数出土しており、江戸時代初頭の初期伊万里(いまり)とよばれる陶磁器も出土しています。写真の皿は、径約19cmを測り月と兎をモチーフにした吹き墨の皿で、初期伊万里の名品で



▲A区 B4層石器群の出土状況

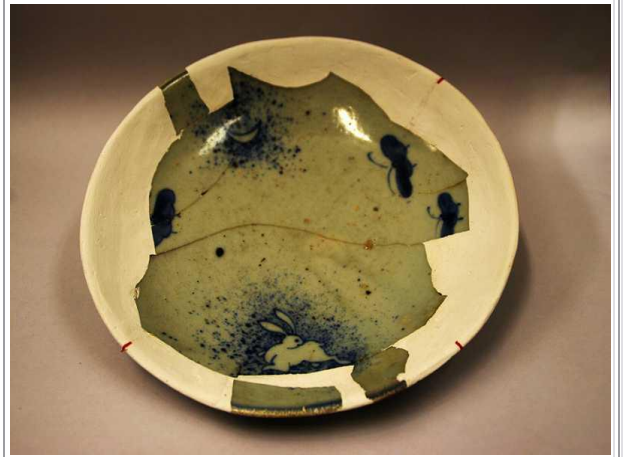


▲A区 B4層打製石斧出土状況

す。残念ながら完形にはなりません、同様の皿は3個体分の破片が発見されました。江戸時代の屋敷跡周辺からは、江戸時代前期～中期の陶磁器類が多く出土しており、優品も多いことから、家主は、遅くとも江戸時代初め頃からこの地に居を構え、かなりの有力者であったことが窺えます。



▲A区 出土石器接合資料



▲A区 江戸時代初期の陶磁器